

「保健室の先生をめざす会」における学生交流に関する一考察

— 仲間と育つ養成教育をめざして —

A Study of the Meeting to Interact with the Course Students by
‘The Group of Students Aiming to Become the Teacher of
the health room’
— For a *Yogo* Teacher Training Education to Grow up with
the Teammates of the Course —

後藤多知子 ・ 中林 恭子 ・ 舘英津子 ・ 渡辺千津子

愛知みずほ大学人間科学部人間科学科

Tachiko Goto ・ Kyoko Nakabayashi ・ Etsuko Tachi ・ Chizuko Watanabe

Division of Sciences, Department of Human Sciences, Aichi Mizuho College

キーワード： 養護教諭養成教育 学生交流 保健室の先生をめざす会
Key words: *Yogo* teacher training education, interact with teammates
a group of students aiming to become the teacher of the health room

Abstract

The purpose of this study is to analyze the effect of an exchange meeting organized by ‘the group of students aiming to become the teacher of the health room’ on the students in the *Yogo* teacher education course. The meeting was attended by all 58 *Yogo* course students of all grades and intended to promote exchanges among them. Afterwards we conducted an anonymous questionnaire survey in September 2015 and analyzed it. The survey result shows that the meeting had a significant effect on a large number of students who participated. Most of all, it helped them become aware of *Yogo* teachers’ philosophy and also of the importance of having teammates, which are both valuable in the *Yogo* teacher training education. The result suggests it is significant for the group to continue to have such meetings.

I はじめに

平成 20 年の教職員免許法施行規則改正により、教職に関する必修科目として「教職実践演習」が新設された。新規採用時に求められる資質能力を学生が修得できるように、卒業直前まで教育することが強化された。

ところで、養護教諭の養成大学は全国的に増加している。中でも東海地区は全国で最も養成大学・短期大学が多い。学生募集の激戦地区として養成大学は特色を明確にし「学生に選ばれる大学」をめざし「学生をどう育てるか」が問われている。

本大学は 1 学科の小規模大学である。その特徴を強みとし「1 人 1 人の学生に親身に丁寧支援する」ことが養護・保健コースの目標である。しかし、学生に対して過保護や過干渉な支援にならないように留意している。学生自身が主体として「大学生活をいかに送るか」「どうキャリアデザインしようと考えているか」が成長の鍵を握っていると考えている。

取組の 1 つとして、平成 22 年度から「保健室の先生をめざす会」（以下、「めざす会」）を、カリキュラム外で養護・保健コースとして実施している。教員側の意義としては、ポートフォリオ作成の一斉指導の機会や、学習方法等の指導の機会としている。学生側の意義としては、養護教諭志望動機の明確化、コミュニケーション能力の向上、仲間作り、養護教諭としての知識理解の向上である。学生は「めざす会」に 1 年生次から参加することで養護教諭志望のモチベーション向上を図り、同学年の学生同士が養護教諭の職務や現状について話し合う機会となっている¹⁾。

これまで「めざす会」は主に学年毎に実施してきたが、2015 年度は内 1 回を保健室の先生を目指す学生の「コース交流会」として、1 年生から 4 年生までを一堂に会して参加させ志望学生の交流の場とした。その評価を行い、課題を明確にし効果的な養成教育につなげたい。

II 「めざす会」における「コース交流会」の実施内容 (2015 年度)

本大学では養護実習を 4 年生前期に、保健科教員免許状取得を併せて希望する学生は、3 年生後期に教育実習を履修する。科目「実習事前事後指導」の中で、教育・養護実習報告会（保健体育教員志望学生と合同）が実施されている。

「めざす会」の「コース交流会」においては養護教諭志望の学生が全学年参加して、養護・保健実習報告を行い、学年を超えて交流した。（写真 1, 2）

1. 開催目的・意義

- (1) 養護教諭志望学生の学年を超えた交流の促進
 - ・学生、コース教員が授業外の自由な雰囲気で一室に会して交流し、互いの理解や信頼関係の構築に繋げる。
- (2) 実習に関する理解の促進
 - ・4 年生の体験や本音の感想を聞き、実習や学校現場の理解、実習までに必要な準備活動の理解に繋げる。
- (3) 学生同士が学年を超えて「養護教諭職」について考える機会となる。先輩や後輩の話から自身の職業適性について考える機会となる。
- (4) 各学生の現時点での「養護観」の形成に繋がる。また、現在の自分の「養護観」を認識する。

2. 開催日時

2015 年 9 月 15 日（13 時半～17 時）

3. 参加者

- ・養護教諭志望学生の 1～4 年生の合計 58 名およびコース教員 4 名

4. プログラム

- 1) 学生代表による開会のあいさつ
- 2) 教員代表のあいさつ
- 3) 4 年生の実習発表（13 名）
 - ・指導案、教材、写真、色紙等の実物の提示
- 4) グループ交流
 - ・1 グループ 6～8 人。（学年、出身、養護実習学校種等を参考にグループピング）
 - ・グループ毎に 4 年生リーダーにより進行。（大学生活に関する資料を配布し後輩に説明。4 年生は実習、授業、科目履修、教員採用試験対策、一般就職活動についてなどの質問を受ける。）
 - ・希望がある場合は、メールアドレスを交換。
- 5) コース交流会に関するアンケートの記入
- 6) 教員代表のあいさつ
- 7) 4 年生代表の閉会のあいさつ

5. その他

- ・4 年生の実行委員 6 名を中心にして、4 年生全員で企画準備当日運営を行う。
- ・4 年生の実習での指導案を事前に印刷、冊子にし当日、参加者に配布。



写真1 養護・保健実習の報告の様子



写真2 グループ毎の交流の様子

Ⅲ「コース交流会」の評価 (学生アンケート回答結果の分析)

1. 調査時期・対象・方法・倫理的配慮

参加した学生1~4年生合計58名に対して無記名自記式質問紙調査を行った。全員から回答を得た。回答は中立的な「どちらでもない」という回答を除外し、4「全くその通り」、3「まあその通り」、2「あまりそうではない」、1「全くそうではない」の4件法の選択式とした。また回答理由を自由記述とした。

倫理的配慮として、回答内容を本研究以外の用途には使用せず個人データとしての漏出はないこと、回答は自由であり無記入でも不利益を被らないこと等を口頭で説明した。

2. 分析方法

統計パッケージSPSS for Windows ver.17 および計量テキスト分析ツールKH Coderを用いた。

KH Coderは、計量テキスト分析やテキストマイニングのためのソフトウェアで、質問紙調査における自由記述回答やインタビュー記録などの日本語テキスト型データを計量的に分析するために使用されている。計量テキスト分析とは、文字データを数値化しデータを整理、分析、理解する手法である。

3. 回答結果

表1より、「実習報告会(コース交流会)の参加は有

意義だったか」の質問項目に対し、全員が肯定する結果であった。「全くその通り」と回答した学生は約7割であった。また「コースの学生同士の交流ができたか」の質問項目では約8割が「全くその通り」と回答した。

「養護教諭をめざす意欲が高まったか」の質問項目では参加者の85.4%が肯定する結果であった。「先輩に聞きたいことがあるか(4年生はこれまでに聞いたかったこと)」の質問項目に対しては、学生の6割が肯定する回答であった。「コース教員に聞きたいことがあるか」の質問項目については、学生の4割が肯定する回答であった。

各質問項目について χ^2 検定をした結果、有意な($p < 0.05$ とする)学年間の回答の割合の差は認められなかった。

図1、図2は「実習報告会(コース交流会)の参加は有意義だったか」の質問項目に対し、「全くその通り」と「まあその通り」と答えた学生の理由について、自由記述回答結果をテキストマイニングした共起ネットワーク図である。図1より、コース交流会は1~3年生にとって、今後自分が経験する「実習」や「採用試験」、「体験」の「話」、「意見」を「先輩」に「聞ける」会と言う意義があった。また「先輩」と「交流」し「知り」、自分のことについて「考える」、「思う」場となった。図2によれば、4年生にとっては「いろいろ」な「学年」の「学生」の「意見」や、同学年の「実習」についての話を「聞けた」という意義があった。また「学年」を超えた「交流」の場として意義があったことが分かった。

図3は、「養護教諭をめざす意欲が強くなったか」の質問項目に対して、「全くその通り」と「まあその通り」とした理由について、学生が自由記述した文章をカテゴリー化した結果である。カテゴリーの抽出はコース教員4名で相談しながら行った。また、1人につき1つのカテゴリーになるように相談しながら主と読み取れる理由のカテゴリーに学生を分類した。

その結果、「養護教諭への志望意欲が高まった理由」で1~3年生で最も多かったのが「4年生の姿に触発された」であった。次に多かったのが「養護教諭のやりがいの認識」であった。また、めざす上での「悩みや不安の軽減」や、大学生活の「これまでの振り返り」ができたことや、4年生の話から「実習の達成感を認識」し、自分がめざす意欲に繋がっていた。4年生については、6名のうち4名はこれまで一緒に活動してきた「仲間の存在の再認識」が意欲の強化に繋がっていた。また、参加が「養護教諭をめざす意志決定」や「養護教諭職のやりがいの認識」に繋がっていた。

具体的な学生の自由記述は、表2に一部まとめた。「意欲が強くならなかった学生の理由」として8名の

自由記述を表2に示した。理由として、1～3年生は、養護教諭か一般就職かで余計に迷ったり、4年生は「他にやりたい職業がある」、「就活しているから」と記述していた。

表3は「先輩やコース教員に聞きたいことがある」と回答した学生の自由記述内容をカテゴリー化した結果である。先輩に聞きたいこととして、多かったのは「大学生活」と「実習」についてであった。次いで「自治体別教員採用試験対策」、「一般就職」についてであった。コース教員に聞きたいことは「自治体別教員採用試験対策」が最も多く、次いで「学校現場の経験、教員としての指導方法」、「勉強方法」であった。

4. 考察・まとめ

「コース交流会」は、開催目的・意義を確信できた。大多数の学生にとって有意義であったことが分かった。わずか半日の交流でも、先輩や仲間から聞いた体験談や考え方が学生に影響を与えていた。仲間の言葉は心を揺さぶり、これまでの生活を振り返ったり、今後について考える機会となっていた。一般就職に進路変更するか悩んでいた学生にとっては意志決定に繋がる機会にもなっていた。自由記述の内容から、1～3年生は改めて「養護教諭職」を意識し、「めざしたい職」であるかどうかを自分自身に問い直し、場当たりの毎日に流される大学生活ではいけないことなど、4年生の姿に触発されていた。4年生の多数にとっては、先輩に語ったことが、大学生活の振り返りや仲間の存在への感謝に繋がっていた。また、養護教諭職をめざす意志決定の強化の機会になっていた。

「ピア・サポート」とは「仲間による対人関係を利用した支援活動の総称」²⁾である。サポートされる側だけでなく、サポーター側の成長も目的とされる。各大学では新入生教育、授業や就職支援時など益々取り入れられている。学生同士の相互関係の中で学び合いが生じ、モチベーションや積極的な態度の向上が両者側に認められることが明らかになっている^{3)～6)}。今回の「コース交流会」はピア・サポート活動とも言え、同様の効果があったことがアンケートの結果から分かった。

学生の成長には仲間の存在やチームを意識させて一体感・所属観を育成することが有効であると考えられる。仲間意識を高める機会、学生同士が安心して切磋琢磨し合える存在になり、励まし合いや、良い意味でのライバル同士として競い合うことにも繋がり、養成教育が効果的になると考えられる。

Ⅳ 今後の課題

一堂に会して仲間が集まる会の継続は、養成教育段

階の「養護教諭アイデンティティ」の構築や、さらには「カレッジアイデンティティ」(大学の個性化)の形成や「コース文化」の形成に繋がるだろう。「コース交流会」の実施の継続が課題である。

全学年の学生とコース教員が一堂に会する時間設定が大変難しい。今回は夏季休業中に設定したため、自宅に帰省していた遠方出身の学生が参加しなかった。学生が参加しやすい時期を考慮し、年に複数回実施することが効果的であろう。

4年生の一部の学生の「養護教諭職」へのモチベーション持続も課題である。教員採用試験の1次試験結果後に一般就職活動を行っている学生もいる。養護教諭の就職を希望している学生も、卒業後に就職ができるかどうか不安を募らせている。コース教員として、個別の不安を受け止め、免許状取得へのモチベーション維持と向上に繋がる教育活動の工夫が必要である。

ー参考文献ー

- 1) 後藤多知子、中林恭子:「保健室の先生をめざす会」の実践に関する一研究ー養護教諭養成教育における新たな試みー, 瀬木学園紀要 6, 2012
- 2) 青野篤子、橋本優花里、山崎里央: 大学におけるピア・サポート活動の新たな展開ー学生の横の関係と縦の関係をつなぐ試みー, 福山大学人間文化学部紀要 13, 29-42, 2013
- 3) 鳥越 ゆい子、武 佐和子、川西 千弘: K 女子大学のピア・サポート活動における学生の成長ーピア・サポーターの成長に注目してー, 帝京科学大学紀要 9, 45-56, 2013
- 4) 高橋 伸子: 大学生のピア・サポートプログラムに関する一考察ー流通経済大学社会学部初年次教育における新入生支援の事例からー, 流通経済大学社会学部論叢 25(1), 57-75, 2014
- 5) 宮橋小百合: 初年次教育におけるピア・リーダーのサポートとその評価ー地方私立大学における事例に基づいてー, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要 (25), 49-56, 2015
- 6) 吉田 博: 学生が参画する教育改善・学生支援活動の効果検証に関する一考察ー徳島大学学生チーム「繋ぎ create」の事例からー大学教育研究ジャーナル 10, 9-20, 2013

表1 平成27年度 実習報告会についてのアンケート回答結果 (n=58)

質問項目	学年	回答人数 / 割合					回答結果 平均値±標準偏差	χ ² 値 (自由度) p値
		全くその通り	まあその通り	あまりそうではない	全くそうではない	計		
実習報告会に参加して有意義だったか	1年生	7 63.6%	4 36.4%			11 100.0%	3.7±0.46	3.297 (3) p=0.348
	2年生	12 80.0%	3 20.0%			15 100.0%		
	3年生	15 78.9%	4 21.1%			19 100.0%		
	4年生	7 53.8%	6 46.2%			13 100.0%		
	計	41 70.7%	17 29.3%			58 100.0%		
コースの学生同士の交流ができたか	1年生	8 80.0%	2 20.0%			10 100.0%	3.8±0.46	5.176 (6) p=0.521
	2年生	10 71.4%	4 28.6%			14 100.0%		
	3年生	16 88.9%	2 11.1%			18 100.0%		
	4年生	9 75.0%	2 16.7%	1 8.3%		12 100.0%		
	計	43 79.6%	10 18.5%	1 1.9%		54 100.0%		
養護教諭をめざす意欲が強くなったか	1年生	9 81.8%	2 18.2%			11 100.0%	3.4±0.83	14.084 (9) p=0.119
	2年生	7 46.7%	6 40.0%	2 13.3%		15 100.0%		
	3年生	12 66.7%	4 22.2%	2 11.1%		18 100.0%		
	4年生	6 54.5%	1 9.1%	2 18.2%	2 18.2%	11 100.0%		
	計	34 61.8%	13 23.6%	6 10.9%	2 3.6%	55 100.0%		
先輩に聞きたいことがあるか (4年生はこれまでに聞きたかったこと)	1年生	4 50.0%	4 50.0%			8 100.0%	2.7±1.19	8.036 (9) p=0.53
	2年生	5 35.7%	4 28.6%	2 14.3%	3 21.4%	14 100.0%		
	3年生	5 27.8%	4 22.2%	3 16.7%	6 33.3%	18 100.0%		
	4年生	2 20.0%	2 20.0%	2 20.0%	4 40.0%	10 100.0%		
	計	16 32.0%	14 28.0%	7 14.0%	13 26.0%	50 100.0%		
コース教員に聞きたいことがあるか	1年生	3 42.9%	3 42.9%	1 14.3%		7 100.0%	2.2±1.13	14.43 (9) p=0.108
	2年生	2 15.4%	4 30.8%	5 38.5%	2 15.4%	13 100.0%		
	3年生	2 12.5%	2 12.5%	3 18.8%	9 56.3%	16 100.0%		
	4年生	1 11.1%	1 11.1%	2 22.2%	5 55.6%	9 100.0%		
	計	8 17.8%	10 22.2%	11 24.4%	16 35.6%	45 100.0%		

※回答4件法選択式 (4: 全くその通り 3: まあその通り 2: あまりそうではない 1: 全くそうではない) とした。

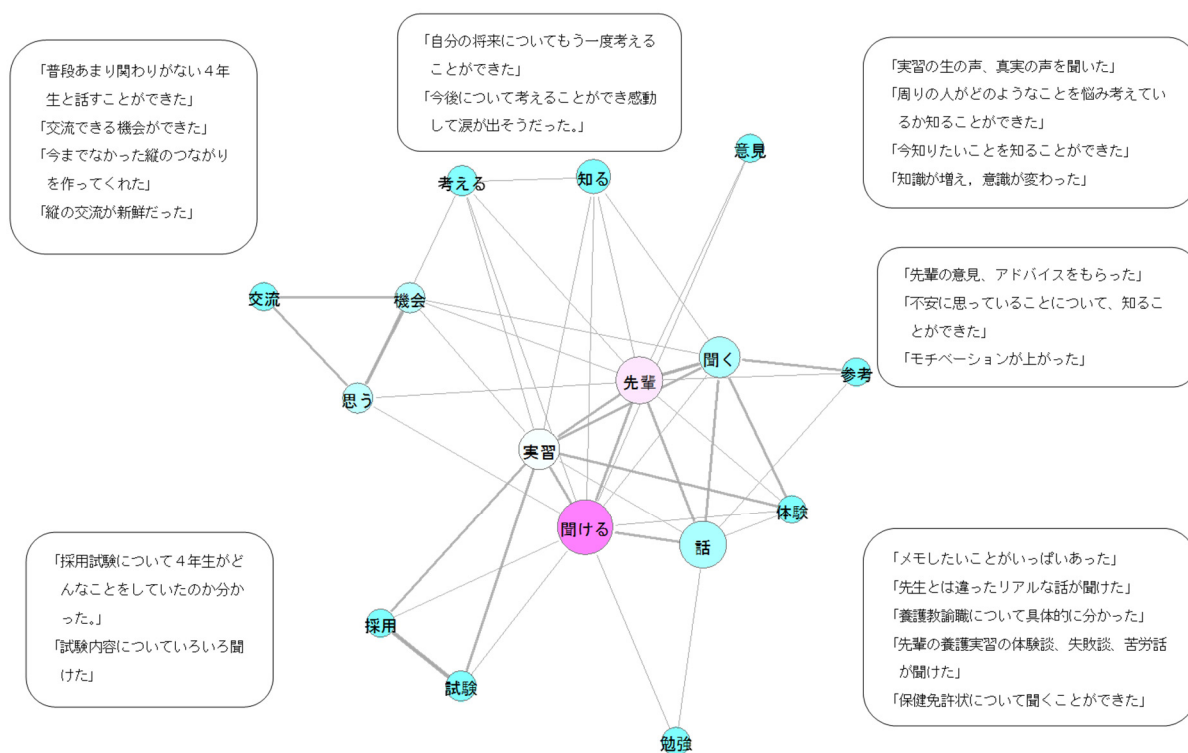


図1 実習報告会が有意義な理由についての共起ネットワーク（1～3年生、回答者n＝45）

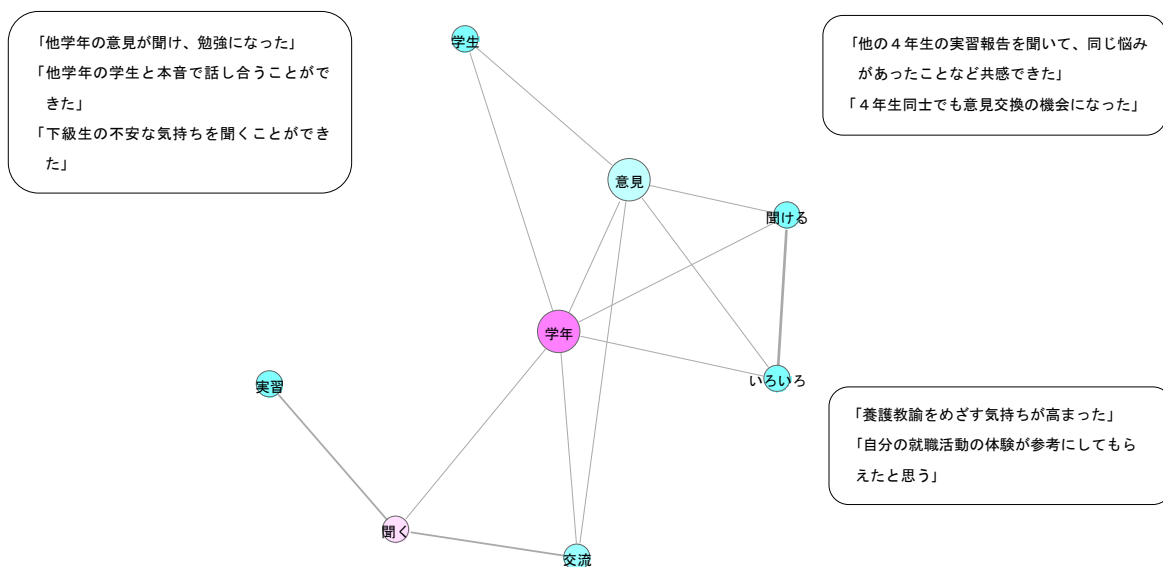


図2 実習報告会が有意義な理由についての共起ネットワーク（4年生、回答者n＝9）

図3 実習報告会に参加して養護教諭をめざす意欲が強くなった理由

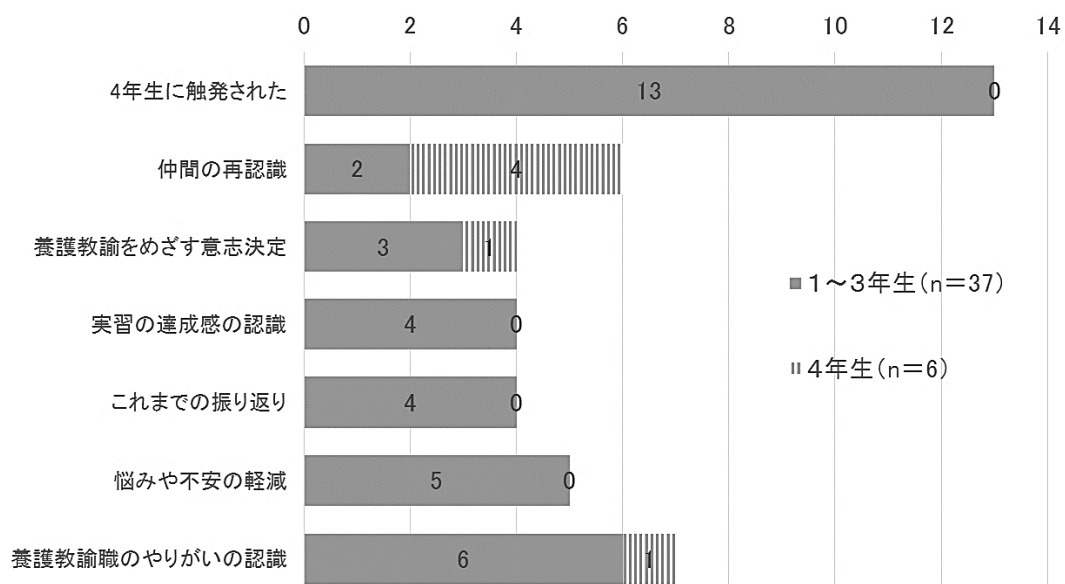


表3 先輩に聞きたいこと・先生に聞きたいこと（全学年自由記述内容）

先輩に聞きたいこと (n=27人)	先生に聞きたいこと (n=17人)
・ 大学生活について(授業、勉強、アルバイト、時間管理、やっておくとよいこと)	9
・ 実習について(準備、生活、子どもとの交流)	7
・ 自治体別採用試験対策	4
・ 一般就職について	4
・ 意欲維持方法	1
・ めざす養護教諭像	1
・ 学校ボランティアについて	1
	先生に聞きたいこと (n=17人)
	・ 自治体別採用試験対策 6
	・ 学校現場の経験、教員としての指導方法 4
	・ 勉強方法 3
	・ 学校ボランティアについて 1
	・ 自己啓発方法 1
	・ 卒業生の進路情報 1
	・ 資格について 1

表2 実習報告会に参加して養護教諭をめざす意欲が強くなった理由（自由記述例）

（4年生に触発された）

- ・先輩の努力している姿を見て、自分も頑張ろうと思った。
- ・実習での体験を聞き、前もって準備をしなければならなかったと感じたから。
- ・先輩たちの養護教諭への気持ちが伝わってきて、嬉しくてやる気が出たから。
- ・今自分がアルバイトやボランティアをしている以上のことができ、子どもや学校について、先輩たちが楽しそうに話していることがとても素敵だと思ったから。
- ・先輩方の話を聞き、私はもっと頑張らなければいけないと思った。
- ・刺激をもらえたから。
- ・教員の勉強をしっかりとやろうと思った。実習頑張ろうと思った。
- ・先輩の話をきいてもっと頑張りたいと思った。
- ・先輩から実習や教員の話を聞き、頑張ろうと思った。
- ・先輩方が輝いていたから。
- ・先輩がとてもキラキラしていたから。
- ・頑張っている先輩の姿を見て、触発されました。
- ・先輩のようになりたいと思った。

（仲間の再認識）

- ・同じ夢を持つ人が頑張っている姿を見て、自分も頑張りたいと思えたから。
- ・実際に合格した人、真剣に取り組みたいと考えている人と交流できたから。
- ・同級生の意見を聞いて改めてみんなで助け合ってきたことを実感したので、これからまた頑張りたいという意欲がわいた。
- ・他のみんなの頑張りを聞いて、自分も頑張ろうと思ったから。
- ・他の人の意見、意気込みを聞いて刺激になった。
- ・他の学生の意見を聞き、自分ももっと頑張ろうと思ったから。

（養護教諭をめざす意志決定）

- ・不安も多いけれど、最後までやり切りたいと思えたから。
- ・厳しいけど目指したい。
- ・自分の意思を固めました。
- ・自分の養護教諭になるという思いが強くなったから。

（実習の達成感の認識）

- ・難しいけれど、実習の話を聞いたら楽しそうだったから。
- ・養護実習の出来事を聞いて、自分が勉強してきたことを生かすことができたら素敵だなと思ったから。
- ・楽しかったことをたくさん聞け、やりがいを感じたから。
- ・実習の話を聞き、自分も体験してみたい、関わりたいと思ったから。

（これまでの振り返り）

- ・自分がなぜ養護コースを選んだのか改めて見つめなおしたから。
- ・前よりは強くなった。やはり、一度はやりたいと思った職なので努力したいと思ったから。
- ・今自分がおかれている状況を考えさせられた。自分がこれまで勉強してきたことを生かすためにも必ずなりたいという思いが強くなった。

（悩みや不安の軽減）

- ・少し悩みや不安が少なくなったから。
- ・自分が心配に思っていることを先輩方も思っていて少し安心できたから。
- ・へこんだりすることもあるけど、「のびるから頑張れ。」と先輩が言ってくれたから。
- ・受かっている人も落ちている人も、何かしら得るものがあったことを知れたから。
- ・先輩方の話を聞いて、自信がついた。

（養護教諭職のやりがいの認識）

- ・先輩の努力している姿を見て、自分も頑張ろうと思った。「苦しかったけれど、子どもの笑顔が原動力になった。」という話を聞いて、やりがいのある仕事だと感じたから。
- ・先輩の話を聞いて、すごくやりがいのある仕事だと思ったし、自分も先輩方のように人の役に立ちたいと思ったから。
- ・大変だけど、養護教諭の楽しさを聞いたから。
- ・実習の話を聞き、現実味を帯びるようになった。養教がとても素敵な職であると改めて感じた。
- ・先輩方の考えや経験を聞き、養護教諭のすばらしさや教育職の素晴らしさを実感した。
- ・自分を成長させ、子どもと泣いたり笑ったりできる職がいいと思ったから。
- ・養護教諭以外になりたいものがない。

※ 意欲が強くななかった理由

（「あまりそうではない」と「全くそうではない」と回答した合計8名の自由記述例）

- ・教職と、やはり就職とで余計に悩んでいるから。
- ・迷いが出ていてどうしようと思っているから。
- ・就活しているから。
- ・他にやりたい職業があるため。
- ・今までと特に変化がないから。